【沖宗 2025年7月19日〜28

 西日本地区夏合宿のご報告】

座間クラブ総監督の沖宗と申します。

本長期合宿におきましては、保護者の皆に対し、ご理解を賜り熱く御礼申し上げます。

参加選手には、冒頭合宿の目的としては気配り。気遣い。いい格好をつけずに思い切り恥をかくこと。

それを意識し、積極的なプレーした際でのミスは「失敗」ではないことを浸透させました。反面、何も考えず適当な事をすると二度とグランドには立てない圧力も与えました。

沖宗、田崎からはこの期間で必ず1つのまとまったチームに作り上げること、それは当然のことながら差別は一切しないが、区別はするということを宣言しました。

選手それぞれ性格も違い、特徴もありますが、とにかく自己アピールをすること、サッカーの向上だけではなく、文化社会見学を含め、この遠征において感性を磨くことです。

最終的にはこの合宿にて人間力の成長「自律」を目標にしました。ただ急激な向上とは行かないとは思いますが、少しでも保護者に胸を張った活動報告ができることを指示いたしました。

バスでの移動中も1人ずつ合宿に向けた3分間スピーチなど行い人前で喋ることの大切さ、声を腹から出すことなど、かつ違う側面での選手同士のコミュニケーションも行い、思った以上に早い「和」ができた模様でした。

また、序盤監督室に呼んで1人ずつ全員の個人面談を行いました。

加えて調子の悪い選手、悩みを持ってそうな選手には追加で個人面談も行い忖度なく腹をわって話すこともできたつもりです。私個人としても勉強をさせていただきました。

特に勝敗よりも我々が指導したプレーの質や多様なシステムの使い分けについてゆくは高校で少しでも対応できるような指導を心がけたつもりであります。

得意のポジションだけではなく複数のポジションを与え、

システム442、361、3511など特に今回の対戦相手は各県の中学生トップクラス、高校生とも多数行った中、やはり中盤でパワーと技術の違いでそこから崩されてしまいますので、中盤を厚くして3511をほぼ通して戦いました。

3バックでのリスクは承知しておりますので、その対応策なども指導しましたが最終的に高校生とではスピードパワーで競り負けてはしまいます。が、その点は特に問題視はしておりません。パワースピードはいずれ個人も力がついてまいりますので、システムのやり方や個人の果たすべき責任を重点に指導しながら皆有意義であったと自負しております。

ゴールキーパーについつも二人ともタイプが異なりますが、いつもやったことのない、守備範囲を広げるための「ミスをしてこい」と指示しました。ですから失点しても素晴らしい勇気をもったミスをしてくれました。恥をかいてよくやったです！

この10日間の合宿における試合や文化社会見学などの詳細については、選手個人に帰路最終日に保護者に向けた報告感想文を作成することとしておりますので、詳細についてはそれを読んでいただきたく存じます。

LINE提出なので、ご自分のお子様分はすぐご覧になれるはずです。

これは皆様に後日編集し、共有出来るように致します。

田崎コーチも全ての対戦相手の確保、バスの運転、給油場所の計算、宿泊施設への配慮お願い事項、睡眠の指導、食事面の栄養管理指導、生命線の重要な氷確保、サプリメントの用意、怪我体調不良選手の通院引率対応、私が叱咤あとのフォロー、などオフザビッチでの多岐にわたるマネージメントは私以上に重責であり、根回し気遣いにおける疲弊度の大きさもここでご報告させていただきます。

選手皆、猛暑と疲労の中、本当に大変耐えながら誰1人逃げることなく頑張ってくれたことは指導側の我々としても感極まり、27日最終の夕食バーベキューでは淋しい思いは正直なところでありました。

最後のミーティングでは、選手に対して「本当にご苦労様でした。ありがとうございました」

と頭を下げて言うことが精一杯のことばでしかないほどでした。

素敵なチームになったことは間違いなく言わせてください。

追伸1 帰路のバスでも合宿の感想として2回目の3分間スピーチを実施しましたが全員格段の向上に沖宗、田崎は驚きました。

追伸2 とある試合の際、相手選手から我が選手に対し「不適切」的な発言がありましたので、それを悔しくて泣いている選手に内容確認しました。この具体的な内容は控えます。私はハーフタイム時に相手ベンチに行き、ここでは表せないほど、スタッフと当該選手に対し戦いました。選手を守ることは当たり前です。

当然ことの重大さに対し真摯に謝罪をしてはもらいました。

内容は選手にお聞きください。

自分たちもいつ逆の立場になるとも限りませんので、その点は社会勉強として冷静に指導しました。

以上

座間フットボールクラブ代表

 田崎 徹

総監督 沖宗敏彦